

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第68期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	大幸薬品株式会社
【英訳名】	TAIKO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柴田 高
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市内本町三丁目34番14号
【電話番号】	06-6382-1135
【事務連絡者氏名】	専務取締役 吉川 友貞
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市内本町三丁目34番14号
【電話番号】	06-6382-1135
【事務連絡者氏名】	専務取締役 吉川 友貞
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第67期 第1四半期 連結累計期間	第68期 第1四半期 連結累計期間	第67期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(千円)	1,411,777	1,952,002	7,443,743
経常利益(千円)	247,622	638,611	1,211,636
四半期(当期)純利益(千円)	165,887	529,116	1,037,525
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	191,330	577,989	1,111,434
純資産額(千円)	8,719,664	9,906,911	9,478,952
総資産額(千円)	11,801,346	13,145,698	13,016,981
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	12.77	41.59	81.31
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	12.61	40.35	80.09
自己資本比率(%)	73.5	74.9	72.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
 おりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な
 変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州債務危機の長期化や新興国の景気減速懸念等があったものの、新政権による金融政策等を背景に円安・株高が進行し、また財政政策への期待感からも緩やかな回復基調で推移致しました。

このような状況の下、当社グループの連結経営成績は、以下の通りとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、感染管理事業が大幅に伸長し、海外向け医薬品事業も堅調に推移したことから、対前年同四半期比540百万円増（38.3%増）の1,952百万円となりました。また、増収効果に加えて、製造原価における固定費等の減少により利益率も改善したことから、売上総利益は対前年同四半期比413百万円増（45.1%増）の1,329百万円となりました。一方で、当第1四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は、感染管理事業に係わるTVコマーシャル放映等の広告宣伝を強化したことから、対前年同四半期比39百万円増（5.8%増）の707百万円となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の営業利益は対前年同四半期比374百万円増（151.3%増）の622百万円となり、経常利益は対前年同四半期比390百万円増（157.9%増）の638百万円、四半期純利益は、対前年同四半期比363百万円増（219.0%増）の529百万円となりました。

セグメント別の業績につきましては以下の通りであります。

（医薬品事業）

国内向けにつきましては、若年層獲得に向けて広告宣伝や店頭販促に努めたものの、止瀉薬市場の停滞や他社のシェア増加による影響を受け、主力製品『正露丸』及び『セイロガン糖衣A』の販売が落ち込み、売上高は前年同四半期比で減少となりました。

海外向けにつきましては、重点エリアとする中国市場をはじめとし、香港市場や台湾市場における販売が堅調に推移したことに加えて、円安効果もあり、売上高は前年同四半期を上回りました。

これらにより、国内向けの減少を海外向けの増加が上回ったことから、当第1四半期連結累計期間の医薬品事業の売上高は、対前年同四半期比104百万円増（8.4%増）の1,354百万円となりました。また、損益面につきましては、海外医薬品事業における増収及び製造原価における固定費等の減少による利益率改善により、売上総利益が大きく増加したこと等から、セグメント損益は対前年同四半期比167百万円増（28.4%増）の758百万円となりました。

（感染管理事業）

一般用製品につきましては、中国における鳥インフルエンザ報道を背景に主力製品『クレベリンゲル』等の販売が大幅に伸長致しました。また、業務用製品につきましても、主に車両用クレベリン等が伸長したことから、当第1四半期連結累計期間の感染管理事業の売上高は、対前年同四半期比438百万円増（283.3%増）の593百万円となりました。損益面につきましては、流通在庫の増加等により返品調整引当金繰入額が増加したものの、相対的に利益率の高い一般用製品の大幅増収から、前年同四半期に比して売上総利益は顕著な増加となりました。また、販売費及び一般管理費は広告宣伝の強化等により、前年同四半期に比して増加しましたが、セグメント損益は対前年同四半期比198百万円増の157百万円（前年同四半期は40百万円の損失）となりました。

(その他事業)

その他事業につきましては、主に木酢液を配合した入浴液や園芸用木酢液等の製造販売を行い、売上高は対前年同四半期比3百万円減(42.0%減)の4百万円となった一方、セグメント損益は対前年同四半期比0百万円増の5百万円の損失(前年同四半期は6百万円の損失)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間における資産合計は13,145百万円(前連結会計年度比128百万円増)となりました。また、負債合計は3,238百万円(同299百万円減)、純資産合計は9,906百万円(同427百万円増)となりました。前連結会計年度からの主な変動要因は、未払金等の減少による流動負債309百万円の減少、また、利益剰余金の増加等による純資産427百万円の増加等であります。なお、自己資本比率は前連結会計年度から2.6ポイント上昇し、74.9%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、34百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	51,024,000
計	51,024,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,137,200	13,141,000	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり権利 内容に何ら限定のない当社 の標準となる株式 1単元の株式数 100株
計	13,137,200	13,141,000	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日 (注)1	65,600	13,137,200	21,699	199,868	21,699	111,097

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 平成25年7月1日から平成25年7月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が3,800株、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,473千円増加しております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 390,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,678,600	126,786	完全議決権株式であり 権利内容に何ら限定の ない当社の標準となる 株式 1単元の株式数 100株
単元未満株式	普通株式 2,900	-	-
発行済株式総数	13,071,600	-	-
総株主の議決権	-	126,786	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
大幸薬品株式会社	大阪府吹田市内本町三丁目34番14号	390,100	-	390,100	2.98
計	-	390,100	-	390,100	2.98

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,173,034	5,470,425
受取手形及び売掛金	2,638,651	2,327,197
商品及び製品	553,035	764,313
仕掛品	635,706	593,102
原材料及び貯蔵品	209,896	196,005
その他	282,875	293,675
貸倒引当金	19,003	18,000
流動資産合計	9,474,195	9,626,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	992,399	982,404
機械装置及び運搬具(純額)	335,047	329,038
土地	1,330,450	1,330,450
その他(純額)	141,698	145,151
有形固定資産合計	2,799,596	2,787,044
無形固定資産	42,046	38,736
投資その他の資産	701,142	693,196
固定資産合計	3,542,785	3,518,977
資産合計	13,016,981	13,145,698
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	444,562	473,822
未払金	1,253,452	1,131,988
未払法人税等	76,904	50,619
返品調整引当金	267,000	336,000
賞与引当金	174,939	20,106
役員賞与引当金	94,500	-
その他	191,097	180,784
流動負債合計	2,502,456	2,193,322
固定負債		
長期未払金	562,700	562,700
退職給付引当金	460,863	472,556
その他	12,009	10,208
固定負債合計	1,035,572	1,045,464
負債合計	3,538,029	3,238,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	178,169	199,868
資本剰余金	89,398	111,097
利益剰余金	9,473,207	9,812,102
自己株式	281,714	281,714
株主資本合計	9,459,059	9,841,353
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,135	33,318
為替換算調整勘定	67,954	23,264
その他の包括利益累計額合計	38,818	10,053
新株予約権	58,711	55,503
純資産合計	9,478,952	9,906,911
負債純資産合計	13,016,981	13,145,698

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1,411,777	1,952,002
売上原価	503,372	553,045
売上総利益	908,404	1,398,956
返品調整引当金戻入額	239,000	267,000
返品調整引当金繰入額	231,000	336,000
差引売上総利益	916,404	1,329,956
販売費及び一般管理費	668,816	707,845
営業利益	247,587	622,110
営業外収益		
受取利息	952	824
受取配当金	933	1,025
為替差益	-	10,496
受取賃貸料	1,639	1,667
貸倒引当金戻入額	4,150	1,035
その他	877	1,661
営業外収益合計	8,554	16,709
営業外費用		
為替差損	7,210	-
賃貸費用	155	157
その他	1,153	51
営業外費用合計	8,519	209
経常利益	247,622	638,611
税金等調整前四半期純利益	247,622	638,611
法人税、住民税及び事業税	2,695	50,337
法人税等調整額	79,038	59,157
法人税等合計	81,734	109,494
少数株主損益調整前四半期純利益	165,887	529,116
四半期純利益	165,887	529,116

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	165,887	529,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,495	4,182
為替換算調整勘定	23,947	44,689
その他の包括利益合計	25,443	48,872
四半期包括利益	191,330	577,989
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	191,330	577,989
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	56,611千円	59,700千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	194,758	15	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	190,221	15	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医薬品事業	感染管理事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,249,320	154,839	7,616	1,411,777	-	1,411,777
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,249,320	154,839	7,616	1,411,777	-	1,411,777
セグメント利益又はセグメ ント損失()	590,518	40,978	6,040	543,499	295,911	247,587

(注)1.セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 295,911千円には、各報告セグメントに配分していない
全社費用 295,911千円が含まれております。

2.セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医薬品事業	感染管理事業	その他事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,354,013	593,574	4,415	1,952,002	-	1,952,002
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,354,013	593,574	4,415	1,952,002	-	1,952,002
セグメント利益又はセグメ ント損失()	758,116	157,978	5,244	910,849	288,738	622,110

(注)1.セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 288,738千円には、各報告セグメントに配分していない
全社費用 288,738千円が含まれております。

2.セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	12円77銭	41円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	165,887	529,116
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	165,887	529,116
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,986	12,723
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	12円61銭	40円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(千株)	172	389
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

重要な設備投資

当社は平成25年7月9日開催の取締役会において、新工場の建設を決議致しました。

(1) 設備投資の目的

医薬品事業及び感染管理事業における生産活動の合理化及び拡大、また、老朽化した現有生産拠点の機能刷新を目的とするものであります。

(2) 設備投資の内容

所在地 京都府相楽郡精華町
 設備の内容 医薬品及び化学品製造工場
 投資予定総額 約46億円
 資金調達方法 自己資金

(3) 設備の導入時期

平成28年3月期稼働開始予定

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月12日

大幸薬品株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井 理晃 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷口 誓一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大幸薬品株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大幸薬品株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。